

「仕事ができる社員、できない社員」という本からです
自分の権利を主張する人 「今いうべきことか」を冷静に見極めよ

「権利」とは、立場の弱い人が主張するものです。社会的弱者に対しては、本来は必然として認められるべきものでしょう。一般的な社会において、そういった立場にある人を助けていくという意味では、弱者が主張するまでもなくセーフティネットの仕組みとして差し伸べられるものではないかと思います。しかし、これを「会社」に置き換えると、この考え方はそぐわなくなります。採用試験を経て一種選ばれた人たちだけで構成される会社の中においては、何度も繰り返しお話ししてきた通り、厳しい競争がその根源にあります。あくまで競争によってすべてが決まるのです。ですから、競争に負けそうになったからといって、いわゆる「自分の権利」を主張されても会社は困ってしまいます。「自立した個」を持った人が集まってつくり上げたチームによって目標を達成しつつ、お互いのモラルを上げ、さらに高い目標を目指して進んでいくのが、会社という組織です。そこに、まったく次元が違うベクトルの「自分の権利」を持ち出しても、害になることはあっても、チームの向上にもモラルアップにも、プラスに働くことは決してありません。だから有能な社員は、無闇に権利を主張したりしないのです。極端な例を挙げれば、会社が不況にあえいでいるときに、権利を持ち出してきて、賃上げ要求することが会社全体のためになるのか、ひいては本当に自分のためになるのかというと、決してそうではないと思います。当然の権利だと思うかもしれませんが、苦しいときを乗り越えるために、社長も社員も協力し合っていこうとする士気を高める必要があるときに、それを失わせるであろうことは否定できません。海外では労働組合が強いため、ストライキが起こることも珍しくありません。せっかく海外旅行へ行ったのに、電車や飛行機がストライキ中で移動もままならなかったという経験のある方も、少なくないのではないのでしょうか。私も妻の故郷であるフランスへよく足を運びますが、あるとき、パリからニースへ飛ばうとしたところ、ストライキ中で飛行機の発着がほとんどない状態でした。そこでレンタカーを借りようとしたところ、半径 200 キロ圏内には借りられるレンタカーがすでに一台もなかったのです。結局、しばらく友人の家に泊めてもらうはめになりました。

もちろん、労働環境や条件によっては、不当な扱いを受け、権利を主張すべき場合もあるでしょう。あらゆる環境は悪くないのに、業績が下がり、自分たちの給料がみるみる下がっていくような事態になれば、それは許されないことであり、経営者の実力が疑われる事態であると思います。ただ、一般的なレベルの労働環境にある人たちが、他人に迷惑をかけてまで権利を主張することが、本当に正しいのでしょうか。日本では、労働組合の無闇な権利の主張がなされるようなことはめったになくなっており、とても幸いなことだと思います。

現場の仕事のレベルにおいて、もっと自分の権利を主張したいと考えたときは、一呼吸おいて冷静になってください。そして、その主張がチームワークの邪魔にならないか、モラルの低下につながらないか、そもそも競争を基本とする会社の中で主張するのに正当な権利なのか、客観的に自分自身を省みてほしいと思います。権利を主張することが悪いではありません。主張していい場なのか、ふさわしい内容なのか見極めることができるかどうか、仕事のできる社員かそうでないかの差なのです。

自分の権利を主張したいと考えたときはどうしようと言っていますか？

()